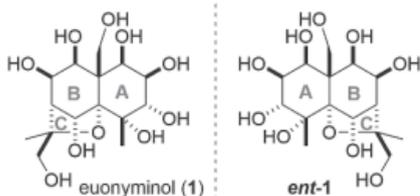


26S-am08S

オイオニミノールの全合成研究

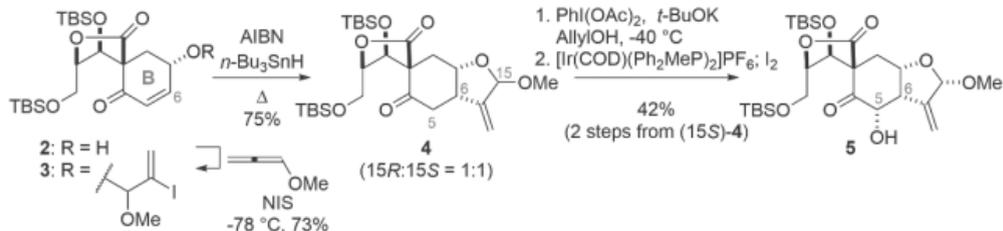
○王 瀛華¹, 藤澤 博基¹, 占部 大介¹, 井上 将行¹ (¹東大院薬)

【目的】オイオニミノール (**1**)は、特異な三環性骨格上に11個の連続する不斉中心と多数のヒドロキシ基を有する、ジヒドロ-β-アガロフランセスキテルペンである。**1**を母核に持つ天然物は、ヒドロキシ基の修飾様式の違いにより様々な生物活性を示す。我々は、これら天然物群の統一



的
全合成に向け、**1**の鏡像異性体 **ent-1**を標的化合物とした合成研究に着手した。

【方法・結果】D-マンニトールより導かれる**2**¹⁾から合成したビニルエーゼド**3**をラジカル条件に付すと、速やかに環化反応が進行し、C6位に3炭素ユニットが導入されたアセタール**4**を与えた。続いてMoriartyらの手法²⁾を利用することで、**4**のconcave面からC5位に酸素原子を導入した。以上により、**ent-1**の5個の不斉中心を有する高度に酸素官能基化された**5**を得ることに成功した。



【参考文献】1) Ishiyama, T.; Urabe, D.; Fujisawa, H.; Inoue, M. *Org. Lett.* **2013**, *15*, 4488.

2) Moriarty, R. M.; Hu, H.; Gupta, S. C. *Tetrahedron Lett.* **1981**, *22*, 1283.